

word対応テキストエディタ

WZ Writing Editor 3

ガイドブック 5

作家のための道具化②

WZW3 Portableの提案



どこでも同じ環境で書き続けられる、
作家のための執筆環境。

はじめに

本書は、Word 対応テキストエディタ WZ Writing Editor 3（以下、WZW3）を、場所や使用する PC にできるだけ左右されず、自分の執筆環境として使い続けるための実践ガイドです。

本書では、WZW3 を USB メモリにセットアップして使用する「WZW3 Portable」を中心に、執筆環境そのものを持ち運ぶ方法を紹介します。あわせて、フォントやキーバインド、日本語入力、自動保存や世代履歴、フォルダ構成など、Portable 運用を前提とした環境設定についても取り上げます。

さらに、USB メモリの破損や紛失への備え、OneDrive や Dropbox などのクラウドストレージとの組み合わせについても解説します。

Portable 運用の目的は、単に USB メモリから WZW3 を起動することではありません。場所や PC が変わっても、できるだけ普段使用している設定に近い環境で、迷わず文章へ向かえる状態を作ることにあります。

本書が、WZW3 を自分の「書くための道具」として、環境にとらわれず活用するための一助となれば幸いです。

2026/8/16 初版発行

WZ Writing Editor ユーザーズグループ代表 藤田肇

[WZ Writing Editor 履歴] —————

2024 年 11 月 27 日：Word 対応の Version 3 発売開始

2014 年 12 月 08 日：Direct Write 対応の Version 2 発売開始

2011 年 12 月 13 日：初版発売開始

*コラム見出しに「鉛筆を持つ手のイラスト 4© えんぴつ素材」を使用しています。

contents

はじめに	1
contents	2
第 1 章 WZW3 Portable のインストールと設定	5
1-1.なぜ、WZW3 は Portable で使うと最強なのか？	5
「PC に合わせる」から「PC を道具化する」へのシフト	5
Portable 運用が作家にもたらす 4 つの強み	6
✍️ [column:1] WZW3 で書いていると、なぜ文章が壊れにくいのか	8
1-2. WZW3 Portable の作成方法	8
USB メモリへのインストールと動作確認	9
エディタと作品を同一の USB メモリ内に収めるフォルダ設計	12
相対パスで完結させるのがポイント	14
1-3. [WZW3 Portable の設定 1] フォントと行間	14
書きやすさを左右するフォント選び	14
✍️ [column:2] フォントが変わると、文体が揺れる	16
1-4. [WZW3 Portable の設定 2] マウスを捨てるショートカットキーの活用	16
WZW3 Portable で特に効くキーバインドの考え方	16
入力方式（VZ ライク、Emacs ライク、Windows 標準など）の選択	17
1-5. [WZW3 Portable の設定 3] 日本語入力 IME 環境を整える	18
IME の選択と設定ポイント	18
変換辞書・単語登録・学習履歴を揃える意味	19
スマート入力で、原稿中の語句を再利用する	19
✍️ [column:3] 文章を書くにあたって、体感を同じにするための 3 要素	20
1-6. [WZW3 Portable の設定 4] 自動保存とバックアップ（世代履歴）の設定	21
自動保存の設定手順	21
バックアップの設定手順	22
世代履歴を呼び出す	22
3 つの機能を使い分ける	23
✍️ [column:4] 保存の不安が思考を止める	25
1-7. [WZW3 Portable の設定 5] フォルダ設計を「脳」に合わせる	25
名詞や単語をすぐ取り出せるファイルを作る	25
作家の「第二の脳」をつくる	26
複数ファイルを同時に開く	26

「復元」で前回の執筆環境を呼び戻す	27
1-8. [WZW3 Portable の設定 6] 公共・職場 PC での運用	27
インストールできない環境での注意点	28
起動して、即いつもの画面	29
1-9. [WZW3 Portable の設定 7] USB メモリの破損・紛失・マルウェア対策	29
USB メモリは「作業媒体」。「唯一の保管庫」にしない	29
 [column:5] WZW3 Portable を格納した USB メモリを紛失したら…	30
別媒体への定期的なコピー保存	30
USB メモリの暗号化を検討する	31
 [column:6] WZW3 Portable を格納した USB メモリが感染したら？	32
第 2 章 WZW3 と OneDrive／Dropbox の連携	33
2-1. クラウド連携の基本的な考え方	33
バックアップと同期の違いを理解する	33
クラウドに WZW3 Portable 環境のコピーを残す	35
WZ Filer を使ってクラウドへコピーする	35
2-2. OneDrive との連携	36
バックアップフォルダをクラウドに置く	36
バージョン履歴を活用する	37
2-3. Dropbox との連携	37
バージョン履歴を活用する	38
2-4.WZW3 Portable USB＋クラウドの二重構成	38
「どこでも大丈夫」と言える環境をつくる	40
クラウドと WZW3 Portable USB の使い分け	40
第 3 章 WZW3 Portable 運用のケーススタディ	41
3-1. ケース 1：自宅 PC とノート PC で同じ執筆環境を使う	41
WZW3 Portable を USB メモリにまとめる	41
フォント・行間・キーバインドを揃える	41
IME 環境を揃え、スマート入力を活用する	42
クラウドにバックアップを置く	42
運用の流れ	42
3-2. ケース 2：出張先・移動先で原稿を書く	43
USB メモリから WZW3 を起動する	43
通信できない場所でも書けるようにする	43
作業後に PC 側へ原稿を残さない	44
3-3. ケース 3：USB メモリを失っても原稿を失わない構成にする	44

USB メモリは作業媒体、クラウドは保管庫と考える	44
OneDrive／Dropbox にバックアップを置く	44
世代履歴とクラウドのバージョン履歴を併用する	45
復旧手順を決めておく	45
3-4. ケース 4：職場・研究室の共用 PC で安全に使う	47
WZW3 Portable 環境を活かす	47
USB メモリ禁止の環境では無理に使わない	47
バックアップを組み合わせる	47
ウイルス／ワーム／マルウェア対策を確認する	48
WZW3 Portable が目指すもの	48
おわりに	49

第 1 章 WZW3 Portable のインストールと設定

WZW3 Portable は、自分の使い慣れた執筆環境を USB メモリに収め、使用する PC が変わっても、どこでも「自分の思考速度」で、いつも通りの環境で文章を書くための運用方法です。

本章では、WZW3 Portable の作成方法をはじめ、フォントやキーバインド、日本語入力、自動保存・世代履歴、フォルダ構成など、持ち運んで使うための設定を順に解説します。さらに、公共・職場 PC で使用する際の注意点や、USB メモリの破損・紛失などに備える方法についても取り上げます。

どこでも「自分の思考速度」で書ける環境を目指して、まずは WZW3 Portable 環境の基本から整えていきましょう。

1-1.なぜ、WZW3 は Portable で使うと最強なのか？

WZW3 は、通常のインストール型アプリケーションとして使うこともできます。しかし、執筆環境そのものを持ち運ぶ「Portable 運用」にすると、その強みはさらに大きくなります。

執筆者にとって重要なのは、単に文章を入力できることではありません。どの PC を使っても、同じ画面、同じフォント、同じキー操作、同じ保存環境で、迷わず書き始められることです。

執筆中の思考は、わずかな違和感でも止まります。フォントが違う、行間が広い、キー操作がいつもと異なる、必要なファイルが見つからない。こうした小さな変化が積み重なると、文章を書く前に環境へ意識を奪われてしまいます。

WZW3 Portable は、PC ごとに異なる環境へ自分を合わせるのではなく、自分に合った執筆環境を、そのまま別の PC へ持ち込むための仕組みです。

「PC に合わせる」から「PC を道具化する」へのシフト

一般的な PC 利用方法では、使用する端末ごとに、アプリケーションの設定をやり直します。

自宅のデスクトップ PC、外出用のノート PC、職場や研究室の共用 PC では、画面サイズも、インストールされているソフトも、入力環境も異なります。そのたびに設定を調整し、操作方法を確認し、保存場所を探しては、書く前に集中力を消耗してしまいます。

これは、執筆者が PC の都合に合わせている状態といってよいでしょう。

Portable 運用では、発想を逆転させます。WZW3 本体、各種設定、必要な辞書や原稿ファイルをひとつの環境としてまとめ、自分の執筆環境を PC へ持ち込むのです。

USB メモリを接続した PC は、いわば画面とキーボードを借りるための端末です。執筆環境の中心は PC 側ではなく、WZW3 Portable 環境側にあります。

つまり、Portable 運用とは、PC ごとの差をできるだけ意識せず、どの端末でも同じ道具として扱えるようにする考え方です。

- いつものフォントで表示される
- いつもの行間で読める
- いつものキー操作で編集できる
- いつものファイル構成から資料を開ける

こうした状態が整っていれば、PC が変わっても、書き手の思考速度は大きく変わりません。WZW3 Portable の利点は、単に USB メモリから起動できることではありません。執筆環境を固定し、PC を交換可能な道具へ変えることにあります。

Portable 運用が作家にもたらす 4 つの強み

WZW3 Portable のメリットは、単に WZW3 を持ち運べることではありません。執筆環境をできるだけ一定に保ち、場所や PC が変わっても、書くことへすぐに集中できる点にあります。ここでは、作家の立場から見た WZW3 Portable の主な強みを 4 つに整理します。

【強み 1】どの PC でも、同じ感覚で書き始められる

WZW3 Portable には、WZW3 の表示設定やキー設定を保存できます。そのため、使用する PC が変わっても、いつも通りの状態で作業を始められます。

操作感が一定であれば、「まず設定を直す」という準備が減ります。起動して原稿を開けば、すぐに文章へ意識を向けることができます。

執筆環境を作り直すことなく、どこでも同じ感覚で「書ける」ことは、作業時間の短縮だけでなく、集中力を守ることにもつながります。

【強み 2】アプリケーションと作品を一体で管理できる

WZW3 本体と原稿、メモ、資料、設定ファイルを WZW3 Portable にまとめれば、執筆に必要なものをひとまとまりとして管理できます。

作品ファイルだけを持ち運んでも、使用する PC に同じアプリケーションや設定がなければ、いつも通りには作業できません。WZW3 Portable では、原稿だけでなく、それを扱うための道具も一緒に持ち運びます。

これにより、「ファイルはあるが、いつもの環境では開けない」といった問題を減らし、PC が変わってもスムーズに執筆を再開できます。

【強み 3】WZW3 をインストールできない環境でも利用しやすい

職場や研究室、出張先などでは、PC に自由にアプリケーションをインストールできないことがあります。WZW3 Portable は、PC 本体へ通常のインストールをおこなわずに起動できるため、利用が許可されている環境であれば、共用 PC でも自分の執筆環境を使える可能性があります。

ただし、USB メモリの使用が禁止されている場合や、外部アプリケーションの実行が制限されている場合は、組織の規則を優先しなければなりません。

WZW3 Portable の運用は、こうした制限を回避するための方法ではありません。あくまで許可された環境の中で、PC ごとの執筆環境の差をできるだけ小さくするための方法だと認識してください。

【強み 4】環境を複製し、復旧しやすい

WZW3 Portable は、WZW3 本体や設定、関連ファイルをまとめてコピーできます。あらかじめ別の USB メモリや PC、クラウドストレージへバックアップしておけば、使用中の USB メモリが破損・紛失しても、バックアップから復元し、作業を再開できます。

これは、原稿を守るだけではありません。フォント、キー設定、画面表示、フォルダ構成といった「書くための状態」も含めて復旧できるということです。

執筆者にとって、本当に失いたくないのは作品ファイルだけではありません。書き続けるために整えてきた環境も、重要な資産です。

WZW3 Portable は、場所や PC に依存せず、自分の執筆環境を再現するための仕組みです。

PC に自分を合わせるのではなく、自分の道具を PC へ持ち込む。

この発想へ切り替えることで、WZW3 は単なるテキストエディタではなく、作家の思考速度と身体感覚を支える執筆環境になります。

[column:1] WZW3 で書いていると、なぜ文章が壊れにくいのか

WZW3 Portable で小説を創作していると、Word と比較して文章が崩れにくいということを実感します。

これは、文法的に正しいとか、誤字脱字が減るという話ではありません。もっと根の深い、文体の呼吸のことです。

WZW3 Portable は書いている最中に結果を見せません。素のままです。

対して、Word は文字を整えることを優先します。それは親切で便利ですが、創作には過剰で不要と思っています。

- ・入力中に自動修正
- ・書式の自動設定
- ・箇条書きの自動作成
- ・スタイルの自動適用

などの自動修正機能において、Word が整えるのは文章ではなく見た目で、たとえば「ルビを振る」と行間が開き、書き手の思考が一瞬止まることがあります。これは余計な余白が視界に入るからです。

この違和感は、行間を「固定値」に設定すれば解消できる、という人もいるかもしれません。

ともあれ、Word は、

- ・文体
 - ・表現
 - ・リズム
- よりも、
- ・見た目
 - ・配置
 - ・書式
 - ・ページ

を重要視するアプリケーションです。これは文章の外側です。

創作する文章は、常に未完成の素材として画面に現れます。

書き手は文章の表情ではなく、語順、リズム、息継ぎに意識を向けながら、1 行ずつ言葉を置いていきます。

WZW3 Portable で書くという行為は、文章を飾らずに扱うことです。推敲しても、書き直しても、それでもなお残るもの——。

文章の芯を、静かに守る環境だと感じています。

1-2. WZW3 Portable の作成方法

WZW3 Portable は、WZW3 本体と各種設定、原稿や資料を USB メモリにまとめ、使用する PC が変わっても、いつも通りの執筆環境で作業できるようにする運用方法です。

作成するときは、WZW3 を USB メモリへセットアップするだけでなく、原稿や資料をどこへ保存し、ど

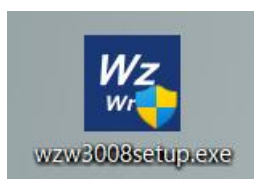
のフォルダを基準に管理するかもあわせて考えておくと、WZW3 Portable を扱いやすくなります。
まずは細かな表示設定やキー設定まで作り込まず、USB メモリから WZW3 を起動し、原稿を開いて保存できる基本環境を整えるところから始めます。

USB メモリへのインストールと動作確認

はじめに、WZW3 Portable を格納する USB メモリを用意します。
USB メモリには、WZW3 本体だけでなく、原稿や資料も保存することを想定します。長編作品や参考資料を多数扱う場合は、現在必要な容量だけでなく、今後データが増えることも考慮して、余裕のある容量を選ぶとよいでしょう。

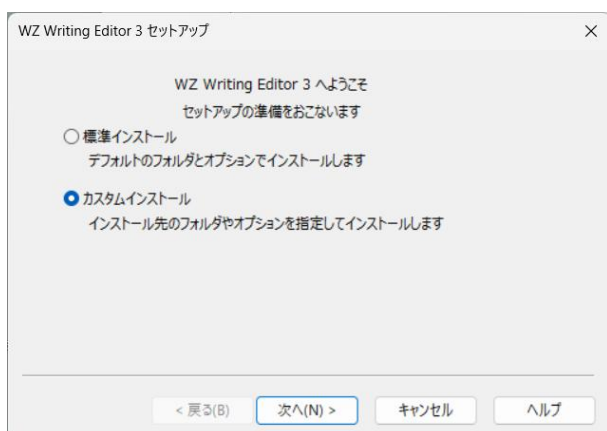
また、WZW3 Portable では日常的にデータの読み書きをおこなうため、容量だけでなく、転送速度や信頼性も重要です。USB メモリには寿命があり、使用を重ねることで記憶素子も少しずつ劣化します。そのため、長期間ひとつの USB メモリだけに頼るのではなく、消耗する記録媒体であることも考慮して使用しましょう。

USB メモリを PC へ接続したら、WZW3 のセットアッププログラムを起動します。



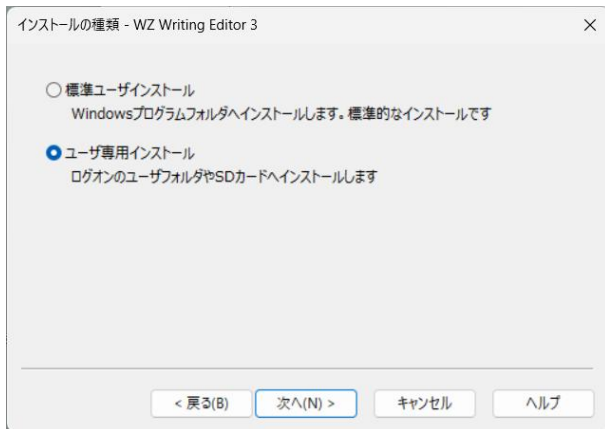
【手順 1】カスタムインストールを選択する

セットアップ画面で「カスタムインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



【手順 2】 ユーザ専用インストールを選択する

インストール方法では「ユーザ専用インストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



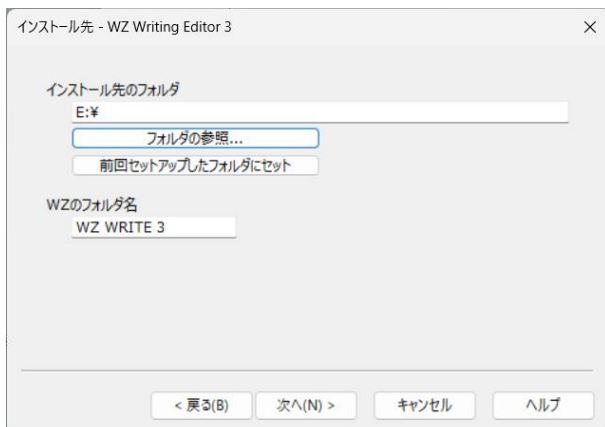
【手順 3】 USB メモリをインストール先に指定する

「インストール先」の画面で、WZW3 を格納する USB メモリを指定します

たとえば、USB メモリが E:ドライブとして認識されている場合は、

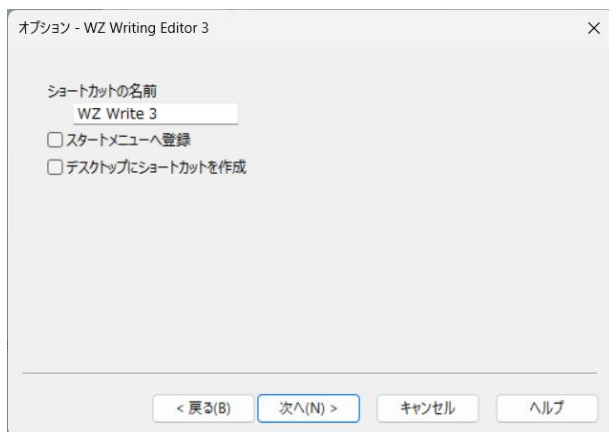
E:¥

を指定します。



【手順 4】 オプションをすべて OFF にする

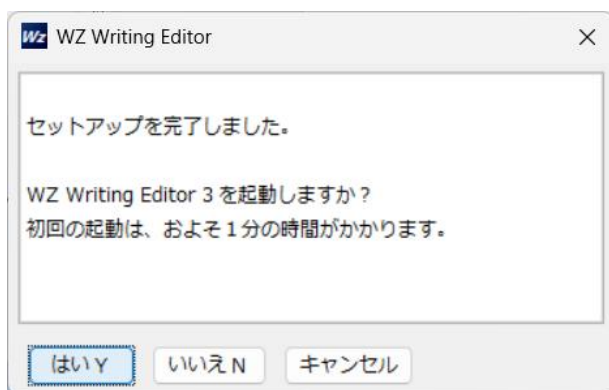
「オプション」画面では、表示されるチェックボックスをすべて OFF にして、セットアップを開始します。



セットアップが完了すると、USB メモリ内に WZW3 のプログラムフォルダが作成されます。

【手順 5】USB メモリから WZW3 を起動する

作成されたフォルダ内にある WZW3 の実行ファイルから起動します。インストール直後に示されるダイアログで [はい] をクリックしても WZW3 が起動します。



WZW3 が起動したら、実際に文字を入力し、テスト用のファイルを USB メモリへ保存してみます。USB メモリから WZW3 を起動し、ファイルを作成して保存できれば、環境の基本部分は完成です。

【手順 6】WZW3 Portable として動作していることを確認する

最後に、[ウィンドウ] - [バージョン情報] を実行します。表示されたダイアログで、

動作モード：個人専用

と表示されていることを確認してください。

「動作モード：標準」と表示されている場合は、WZW3 Portable として正しくセットアップされていません。インストール方法をもう一度確認してください。



エディタと作品を同一の USB メモリ内に収めるフォルダ設計

WZW3 Portable の運用では、WZW3 本体だけでなく、執筆に必要な原稿や資料も USB メモリ内で整理しておくとい扱いやすくなります。一例にすぎませんが、USB メモリ内を次のように分けておくとい分かりやすくなります。

WZ WRITE 3	WZW3 本体（アプリケーション）
Config	各種設定ファイル（環境設定・キーバインドなど）
Dict	IME 辞書・単語登録など
Tools	WZ Filer・WZ Grep などのツール
Works	作品ごとのフォルダ（原稿・設定・アウトラインなど）
└─ 小説 A	本文・人物設定・プロット・メモなど
└─ 小説 B	本文・人物設定・プロット・メモなど
└─	
Materials	資料・情報・メモ・テンプレートなど
└─ 資料・情報	取材メモ・情報収集など
└─ メモ・アイデア	共通メモ・アイデア置き場
└─	
└─	
readme.txt	使い方のメモ・注意点など

重要なのは、PC 側の「ドキュメント」やデスクトップへ原稿を分散させず、WZW3 Portable で使用するファイルを、できるだけ USB メモリ内にまとめることです。

こうしておけば、使用する PC が変わっても、WZW3 本体と作品、資料をひとつの執筆環境として一緒に持ち運ぶことができます。

なお、USB メモリだけを原稿の唯一の保存場所にするのは避けてください。破損や紛失に備えたバックアップについては、「1-9. USB メモリの破損・紛失・マルウェアへの対策」と第 2 章で解説します。

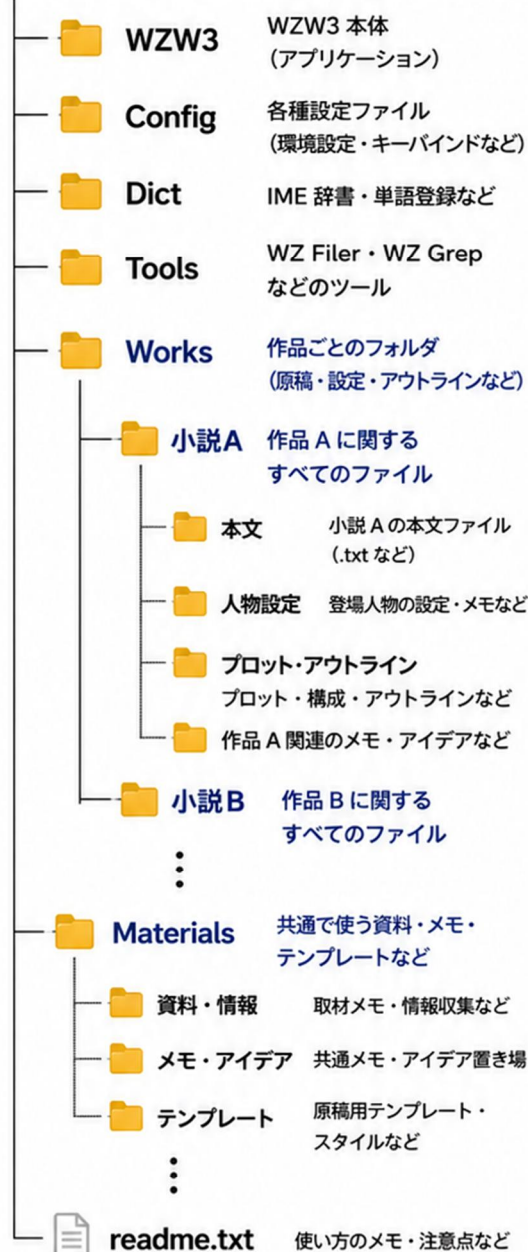
WZW3 Portable の作成方法

ー USBメモリの中身（フォルダ構成の例）

WZW3 本体・設定・原稿・資料をすべて USB 内にまとめ、
USB 内で参照関係を完結させます。



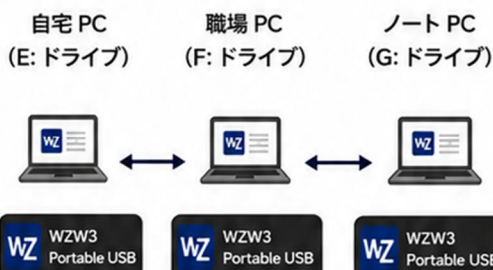
WZW3 Portable USB の中身（例）



ポイント

- すべてのファイルを USB 内に置き、
外部のドライブを参照しない構成にします。
- 相対パスで完結しているため、
PC が変わっても問題なく開けます。
- USB を接続し、WZW3 を起動するだけで、
いつもの環境が再現されます。

ドライブ名が変わっても大丈夫



ドライブ名 (E:/F:/G:...) が変わっても、
USB 内の構成が同じなら、
同じ環境で使えます。

WZW3 Portable の考え方



USB メモリは「単なるアプリの入れ物」ではなく、
あなたの執筆環境そのものです。

作品・資料・設定をひとつにまとめ、
自分の書く環境をどこへでも持ち運べる
ようにします。



まとめ

WZW3 Portable USB の中で、WZW3 本体・各種設定・辞書・原稿・資料が
すべてつながっていることが重要です。
これにより、どの PC でも迷わず、すぐに執筆を始められます。

相対パスで完結させるのがポイント

WZW3 Portable では、USB メモリが接続する PC によって異なるドライブ名で認識される場合があります。ある PC では「E:」でも、別の PC では「F:」や「G:」になることがあります。そのため、原稿や資料の参照先を特定のドライブ名に固定してしまうと、PC を変更したときにファイルを見つけられなくなる場合があります。

WZW3 Portable の運用では、WZW3 本体、原稿、資料を同じ USB メモリ内に置き、できるだけ USB メモリ内で参照関係が完結するように構成しておくことがポイントです。

「この PC の E ドライブにある原稿」ではなく、「この WZW3 Portable の中にある原稿」として管理する考え方です。

最初からシンプルなフォルダ構成を作っておけば、使用する PC が変わっても迷いにくくなります。また、WZW3 Portable 全体をひとまとまりとして扱えるため、その後のバックアップや環境の複製、復旧もおこないやすくなります。

1-3. [WZW3 Portable の設定 1] フォントと行間

WZW3 Portable を作成したら、最初に整えておきたいのがフォントと行間です。

文章を書くとき、文字の形や大きさ、行と行の間隔は、画面の見やすさだけでなく、文章を追う感覚にも影響します。WZW3 Portable では、使用する PC が変わっても、いつも通りの感覚で書けるよう、自分に合った設定を決めておきましょう。

書きやすさを左右するフォント選び

WZW3 では、[表示] — [設定] からフォントや文字サイズを変更できます。設定を変更すると編集画面へすぐに反映されるため、実際の原稿を見ながら調整できます。

長文を執筆するときは、デザイン性だけでなく、長時間文字を追いやすいこと、似た文字を判別しやすいことなども考えてフォントを選びます。

WZW3 Portable の運用では、もう一つ注意があります。WZW3 のフォント設定を USB メモリ側に保存していても、使用する PC でそのフォントを利用できなければ、同じ表示環境にはなりません。

複数の PC で同じフォントを使用できる環境であれば、お気に入りのフォントを揃えておくといでしょう。一方、自由にフォントを追加できない共用 PC などを使用する場合は、各 PC に共通して用意されているフォントを選ぶ方法もあります。

WZW3 Portable では、「好きなフォント」であることに加えて、「移動先でも使えるフォント」であることも選択基準になります。

・等幅フォントを選ぶ理由

テキストエディタでの執筆には、文字幅が一定になるよう設計された等幅系のフォントが向いています。文字幅が安定していると、行頭や字下げの位置を把握しやすく、文章を縦方向に見渡したときにも文字の位置が揃います。

特に、全角空白による字下げや、記号を含む原稿、テキスト形式の資料などでは、文字位置を把握しやすくなります。

日本語を扱えるフォントでは、「Source Han Code JP（源ノ角ゴシック Code JP）」や「Ricty」など、テキストエディタでの表示を意識して設計されたフォントもあります。

Source Han Code JP は、日本語と欧文を混在して表示する用途を意識したフォントで、欧文も一定の文字幅で表示されます。ただし、一般的な半角文字と全角文字の 1：2 の比率とは異なるため、正確な桁揃えを重視する場合には、実際の表示を確認して選んでください。

Ricty や Ricty Diminished などは、半角文字と全角文字の幅が 1：2 になるよう調整されており、日本語と英数字が混在するテキストでも文字位置を把握しやすい特徴があります。

フォントに絶対的な正解はありません。明朝体のほうが文章を読みやすい人もいれば、ゴシック体のほうが入力へ集中しやすい人もいます。いくつか試したうえで、「長時間書いていて違和感が少ない」ものを基準に選ぶとよいでしょう。

・行間は「読みやすさ」ではなく「推敲時の視線の跳躍距離」

行間は、単に広ければ読みやすいというものではありません。行間が狭すぎると、現在読んでいる行と前後の行が密集して見えます。反対に広げすぎると、次の行へ視線を移す距離が大きくなり、文章全体の流れを追いにくくなる場合があります。

執筆や推敲では、行間を「見た目の余白」ではなく、次の行へ視線を移すための距離と考えて調整すると、自分に合った値を見つけやすくなります。

WZW3 では、フォントと同じように行間の変更もその場で画面へ反映されます。実際 of 原稿を数段落表示し、文章を入力するだけでなく、少し長めに読み返ししながら調整してみてください。

特に WZW3 Portable では、一度決めたフォント、文字サイズ、行間を基本設定として揃えておくことで、使用する PC が変わっても、いつも通りの画面から執筆を始められます。

[column:2] フォントが変わると、文体が揺れる

フォントは、単なる見た目ではありません。文体そのものに影響を与えます。

たとえば、細いフォントでは言葉が軽く感じられ、太いフォントでは文が重く感じられる。

字間が詰まれば文章は急かされ、行間が広がれば、呼吸は自然と長くなります。

書き手は無意識のうちに、そうした「見え方」に合わせて言葉を選んでいきます。

そのため、フォントや行間、字間といった設定が変わるだけで、文章の調子が微妙に変わってしまうことがあります。

文体が揺れる、という感覚は、技術の問題ではありません。環境の変化によって、思考のリズムが乱されているのです。

WZW3 Portable では、フォントも行間も、常に同じ設定を保つことができます。

これは、文体を固定するためではありません。文体を守るためです。

文体とは、書き手の癖ではなく、積み重ねてきた時間の結晶です。

環境を同じに保つという行為は、その結晶を壊さないための、ごく現実的な工夫だといえるでしょう。

1-4. [WZW3 Portable の設定 2] マウスを捨てるショートカットキーの活用

WZW3 Portable で効率よく執筆するために、よく使うショートカットキーを覚えておきましょう。文章を書いている最中にマウスへ手を伸ばすと、ホームポジションから手が離れ、入力の流れが一度途切れます。

よく使う編集操作をキーボードだけで実行できるようにしておけば、文章から意識を離さずに作業を続けやすくなります。

WZW3 Portable で特に効くキーバインドの考え方

すべてのコマンドを覚える必要はありません。まずは、執筆中に何度も使う操作から、自分が押しやすいキーで実行できるようにします。

WZW3 では、現在のキー割り当てを [ツール] - [カスタマイズ] - [キーの一覧] で確認できます。

また、標準のキー定義に加えて、ユーザ独自のキー割り当てを追加することもできます。

WZW3 Portable では、こうして整えたキー設定もそのまま利用できるため、使用する PC が変わっても、指の動きを変えずに編集できます。

・コピー／行コピー／行削除

文章の推敲では、語句や文章をコピーしたり、一行を複製して表現を変えてみたり、不要になった行を

削除したりする操作を頻繁におこないます。

選択、コピー、貼り付けといった複数の操作を繰り返すより、よく使う行単位の編集操作をすぐに呼び出せるようにしておく、修正の速度を上げられます。

特に長文では、「直すかどうか迷う」よりも、「まず複製して試してみる」ほうが、文章を大胆に変更しやすくなります。

・矩形選択（箱型選択）

矩形選択は、通常の範囲選択とは異なり、文章を四角形の範囲として選択する機能です。

複数行の同じ位置にある文字や空白をまとめて編集したい場合などに利用できます。

Windows 標準のキー定義では、[Alt] + [Shift] + 方向キーで矩形選択を開始・拡張できます。

WZW3 の置換機能は、矩形選択した範囲内の置換にも対応しています。文章だけでなく、表形式のテキストや一定位置に並んだ記号を編集するときにも便利です。

・元に戻る／やり直し

推敲では、文章を書き換えてから、「やはり前の表現のほうがよかった」と感じる場合があります。

[元に戻る] と [やり直し] は、こうした試行錯誤を支える基本操作です。頻繁に使うため、自分が迷わず押せるキー操作として覚えておくといよいでしょう。

文章を一度壊してみても、よくなければ戻す。

この操作をためらわずにおこなえることも、長文編集では重要です。

・検索と置換

長い原稿ほど、検索と置換は使用頻度の高い操作になります。

登場人物名を探す、表記の揺れを確認する、同じ語句を別の表現へ変更するなど、本文をスクロールして探すよりも、検索を使ったほうが素早く目的の位置へ移動できます。

検索や置換を頻繁に使う場合は、メニューを開かなくても呼び出せるキー操作を覚えておく、と便利です。

特に推敲では、キーボードから手を離さずに、「検索→確認→修正→次を検索」という流れを繰り返せることが大きなメリットになります。

入力方式（VZ ライク、Emacs ライク、Windows 標準など）の選択

WZW3 では、[表示] - [設定] を実行し、[編集] タブの [キー定義] から、操作体系を選択できます。

用意されている主なキー定義は、次の 5 種類です。

- Windows 標準
- VZ ライク
- MIFES ライク
- Emacs ライク
- その他

Windows の一般的な操作に慣れている場合は「Windows 標準」、VZ Editor や MIFES、Emacs などを経験してきた方は、自分の操作経験に近いキー定義を選ぶとよいでしょう。

重要なのは、どの方式が優れているかではありません。考える前に指が動く操作体系を選ぶことです。

さらに必要であれば、標準のキー定義へユーザ独自の割り当てを追加できます。よく使うコマンドを押しやすいキーへ登録して、自分専用の編集環境へ調整していきます。

WZW3 Portable では、この「指が覚えた操作」まで執筆環境の一部として持ち運べます。画面が同じだけでなく、同じキーを押せば同じ動作をすることが、使用する PC が変わっても、いつも通りの感覚で書き続けるための重要な条件になります。

1-5. [WZW3 Portable の設定 3] 日本語入力 IME 環境を整える

文章を書くときの操作感を左右するのは、WZW3 だけではなくありません。日本語を入力するための IME も、執筆環境を構成する重要な要素です。

WZW3 Portable では、WZW3 本体や各種設定を持ち運べますが、IME は基本的に使用する Windows PC 側の環境を利用します。そのため、使用する PC が変わっても、いつも通りの入力感覚で書くためには、IME についても意識して環境を整えておきましょう。

IME の選択と設定ポイント

Windows では、Microsoft IME をはじめ、複数の日本語入力環境を利用できます。IME を選ぶときは、単純な変換精度だけでなく、自分がどのように日本語を入力しているかを確認しておくことが大切です。

たとえば、次のような項目を把握しておきましょう。

- ローマ字入力／かな入力
- 文節の区切り方
- キー操作のカスタマイズや設定状況
- ユーザ辞書の使用状況

Microsoft IME では、かな／ローマ字入力の切り替えやユーザ辞書などを設定できます。

WZW3 では、IME による変換中の文字列を、本文のフォント、行間、折り返しに合わせて表示します。[表示] — [設定] の [色分け] では、変換文字や注目文字などの表示色も調整できます。

・「Google 日本語入力」を縦書きで使う場合

Google 日本語入力など、Microsoft IME 以外の IME を使用することもできます。

ここで注意したいのは、縦書きで使用すると、IME によって変換候補ウィンドウの表示位置や候補の見え方が Microsoft IME とは異なる場合があることです。

いつもは横書きで使用している IME を縦書きでも利用する場合は、実際に文章を入力し、変換候補が見やすい位置に表示されるか、入力中の文字を追いやすいかを確認しておきましょう。

WZW3 Portable で Google 日本語入力を利用する場合も、使用する PC で Google 日本語入力を利用できることが前提になります。利用できない PC では、その PC に用意されている IME を使用することになります。

変換辞書・単語登録・学習履歴を揃える意味

IME を長く使っていると、登場人物名、地名、専門用語、作品独自の言葉などがユーザ辞書へ蓄積されていきます。

たとえば、作品固有の単語の読みを辞書登録している場合、使用する PC でも同じ辞書を利用できれば、入力環境の違いを小さくできます。使用している IME に辞書のエクスポート／インポート機能がある場合は、ユーザ辞書も移行しておくといよいでしょう。

一方、変換候補の学習履歴などは、IME や PC の環境に依存する部分があります。WZW3 Portable だけですべてを同じ状態にできるわけではありません。

そのため、WZW3 Portable では、「WZW3 側の設定」と「IME 側の辞書・設定」は別のものとして考えることがポイントになります。

スマート入力で、原稿中の語句を再利用する

WZW3 Portable では、使用する PC によって、いつも使っている IME のユーザ辞書や単語登録をそのまま利用できない場合があります。そのようなときに役立つのが、WZW3 の「スマート入力」です。

スマート入力とは、編集集中のテキストを自動的に走査し、すでに原稿内で使われている語句を入力候補として表示する機能です。登場人物名、地名、作品独自の用語などを一度入力しておけば、IME へ単語登録していなくても、同じ原稿の中では再入力しやすくなります。

使い方は簡単です。スマート入力モードを ON にして文字を入力すると、先頭の文字に応じて候補が一覧表示されます。

たとえば、すでに本文中に「高嶺野花」という人物名があれば、次に「高」など先頭の 1~2 文字を入力すると候補として表示され、選択して入力できます。

補完候補には、編集集中のテキストだけでなく、WZW3 に内蔵された固有名詞辞書の語句も利用されます。

スマート入力は IME そのものを置き換える機能ではありません。しかし、WZW3 Portable でいつもの単語登録を利用できない場合でも、作品内で繰り返し使う固有名詞や用語の入力を助けてくれます。

[column:3] 文章を書くにあたって、体感を同じにするための 3 要素

文章を書くとき、同じ言葉を使っているはずなのに、なぜか書き味が違うとすることがあります。

その違和感の正体は、思考や技術ではなく、「入力時の体感の差」にある場合が少なくありません。

文章を書くうえで、体感を同じに保つために重要な要素は、大きく分けて 3 つあります。

1：IME の同一感

まず重要なのが、IME の状態です。

変換辞書

単語登録

学習履歴

固有名詞（人名・地名・作品内の語彙）

これらは、書き手の思考と密接に結びついています。

変換候補が意図どおりに出るかどうかは、単なる入力効率の問題ではありません。書き手の思考が、途中で遮られずに言葉へ変換されるかどうか直結します。

IME が変わると、言葉が出てくる速度も、選ばれる語彙も、微妙に変わってしまいます。

2：IME 候補の癖

IME ごとの違いが最も顕著に表れるのが、「文節の切り方」です。

短文では気にならなくても、長文を書いていると、この差は確実に体感として現れます。

どこで区切られ、どの候補が先に出るのか。

この違いによって、書き手は無意識のうちに、文の組み立て方を変えています。

文体は、打鍵のリズムと切り離せません。

3：キー定義は、文章のリズムを決める

3 つ目は、キー定義です。

変換／無変換キーの挙動

確定キー（Enter、Ctrl など）の位置

入力方式（VZ ライク、Emacs ライク、MIFES ライク、Windows 標準など）

これらは、文章を書く際のリズムそのものを形づくりします。

キー操作が身体に馴染んでいけば、思考は止まりません。しかし、指が迷った瞬間、文章の流れも止まります。

1 つ目と 2 つ目は、IME 側の仕様ですが、3 つ目のキー定義については、WZW3 Portable で自分好みに設定することができます。

入力の体感を揃えることは、書きやすさのためではありません。文章のリズムを守るための所業です。

1-6. [WZW3 Portable の設定 4] 自動保存とバックアップ（世代履歴）の設定

WZW3 Portable では、原稿だけでなく、書きかけの状態や過去の版を残す仕組みもあわせて整えておきましょう。

WZW3 には、「自動保存」「バックアップ」「世代履歴」という複数の保護機能があります。それぞれ役割が異なるため、組み合わせて利用することで、保存前の思わぬ事故に備えたり、以前の原稿へ戻ったりできる環境を作ることができます。

自動保存の設定手順

自動保存は、編集中の内容を一定時間ごとに専用フォルダへ保存する機能です。突然 WZW3 を終了した場合などに、保存していなかった内容を取り戻せる可能性があります。

【手順 1】設定ダイアログを開く

[表示] — [設定] を実行し、[編集] タブを開きます。

【手順 2】自動保存の間隔を指定する

[バックアップと履歴] にある [自動保存] から保存間隔を選択します。設定できる間隔は次のとおりです。

- 10 秒
- 30 秒
- 1 分
- 2 分
- 3 分

「OFF」を選択すると、自動保存をおこないません。

指定した時間は、最後の編集操作から自動保存を実行するまでの時間です。長時間文章を書く場合は、自動保存を有効にしておくとう安心です。

バックアップの設定手順

自動保存とは別に、上書き保存を実行したときのバックアップも設定できます。

〔表示〕－〔設定〕－〔編集〕の〔バックアップと履歴〕にある〔バックアップ〕から保存方法を選択します。WZW3 Portable で複数の過去版を残したい場合は、〔バックアップを複数作成〕を選択すると便利です。この設定では、上書き保存のたびに日時や通し番号を付けたバックアップが作成されます。

バックアップの保存先は〔バックアップフォルダ〕で指定できます。たとえば「¥bak」と指定すると、原稿ファイルがあるドライブの「bak」フォルダへバックアップを保存できます。

WZW3 Portable では、原稿と同じ USB メモリ内へバックアップをまとめておくこともできます。ただし、ここで注意が必要です。USB メモリ内のバックアップは、原稿を誤って書き換えたり削除したりした場合には役立ちますが、USB メモリそのものの破損や紛失には対応できません。

別の記録媒体やクラウドへのバックアップについては、「1-9. USB メモリの破損・紛失・マルウェアへの対策」と第 2 章で解説します。

世代履歴を呼び出す

WZW3 には、上記のバックアップとは別に「世代履歴」があります。

世代履歴は、上書き保存をするたびに、その時点のテキストを一つの世代として記録する機能です。この機能は常時 ON になっており、OFF にすることはできません。数百世代前の原稿まで参照できます。過去の前稿を確認するには、次の操作をおこないます。

【手順 1】世代履歴を開く

確認したい原稿を開き、〔ファイル〕－〔世代履歴〕を実行します。

【手順 2】過去の状態を選択する

世代履歴と自動保存のバックアップが一覧表示されます。日時を確認し、開きたい状態を選択します。

【手順 3】過去の原稿を開く

〔OK〕をクリックすると、選択した内容が新しいタブに表示されます。

現在の原稿を上書きするのではなく、過去の内容を別のタブで確認できるため、必要な文章だけを現在の原稿へ戻したり、別ファイルとして保存したりできます。

3つの機能を使い分ける

自動保存は、「保存する前の事故」に備えるための機能です。

バックアップと世代履歴は、「保存したあとの過去の状態」へ戻るために利用します。

そして、USB メモリそのものの破損や紛失に備えるには、別の記録媒体やクラウドへのバックアップを組み合わせます。

この3段階で考えておけば、書きかけの文章を失う事故から USB メモリそのものを失う事故まで、それぞれに備えることができます。

自動保存・バックアップ・世代履歴の役割と違い

WZW3 では、原稿を 4 つの仕組みで守ります。それぞれ役割が異なるため、組み合わせて使うことで、大切な原稿を失わずに執筆を続けられます。

原稿を守る 4 つの仕組み

1 自動保存



保存する前の事故に備える
(作業中のデータを守る)

事故発生 (強制終了・PC フリーズなど)

2 通常保存



意識的に保存した時点での
最新版を確定する

3 世代履歴 (複数バックアップ)



過去の保存状態を複数残し、
必要ときに過去へ戻れる
ようにする



4 クラウド (別媒体へのバックアップ)



USB 自体の故障・紛失・盗難・
火災などに備え、別の場所に
原稿を保管する



それぞれの役割と特徴

1 自動保存

- 一定間隔で自動的に保存される一時ファイルです。
- 保存操作を忘れていても、直前の作業内容に戻ることができます。

備える事故 強制終了、停電、PC フリーズ、誤操作 など

保存場所の例 WZW3 の自動保存フォルダ (メモリ内など)

2 通常保存

- ユーザーが「保存」した時点の原稿が最新版になります。
- 編集の区切りや、大切な節目で保存します。

備える目的 現在の最新版を確定し、作業を積み重ねていく

保存場所の例 WZW3 Portable USB 内の原稿ファイル

3 世代履歴 (複数バックアップ)

- 保存のたびに、過去の状態を世代として残します。
- 「前の状態に戻したい」ときに役立ちます。

備える目的 編集ミスへの対処、過去の案への復帰・比較

保存場所の例 WZW3 Portable USB 内の世代履歴フォルダ

4 クラウド (別媒体へのバックアップ)

- USB メモリが使えなくなったときに備える仕組みです。
- 定期的にコピーしておくことで、どこからでも復元できます。

備える事故 USB の故障・紛失・盗難・水濡れ・火災 など

保存場所の例 クラウドストレージ (OneDrive、Dropbox など)

まとめ： 原稿を守る 4 重構造

1 自動保存



保存する前の
事故に備える

2 通常保存



最新版を
確定する

3 世代履歴



過去の状態に
戻れるようにする

4 クラウド



USB の事故に備え
別の場所に保管する

ポイント

この 4 つを組み合わせることで、
「保存する前の事故」から
「USB 自体の事故」まで、
幅広く原稿を守れます。



大切なこと

- 自動保存や世代履歴だけに頼らず、クラウドなど別媒体にも定期的にコピーしましょう。
- 「いつ・どこに・どう保存するか」を自分のルールとして決めておくことが、安心して執筆を続けるコツです。

[column:4] 保存の不安が思考を止める

書いている最中に、ふと「保存は大丈夫だったのだろうか」と不安がよぎることがあります。その瞬間、思考はわずかに揺らぎ、次の瞬間には、「もし消えてしまったらどうしよう」という恐怖に変わります。

そして、このとき、文章の流れは確実に途切れます。

文章は、一度止まると、元の流れに戻るのが難しいものです。特に、書き手が言葉の流れに深く入り込んでいるときほど、中断の影響は大きくなります。

自動保存やバックアップは、単なる安全装置ではありません。それは、「書き手の思考を守る装置」です。WZW3 Portable で、自動保存と世代管理を適切に設定しておけば、「失うかもしれない」という恐怖から解放されます。

恐怖がなければ、大胆に書くことができます。

消して、書き直して、壊して、また創る。こうした試行錯誤を、躊躇なく繰り返せる環境が、文章を前に進めます。

WZW3 Portable は、保存を意識しなくてもよい環境を提供します。

それは、書き続ける気持ちを、静かに支える土台です。

1-7. [WZW3 Portable の設定 5] フォルダ設計を「脳」に合わせる

WZW3 Portable では、WZW3 本体と原稿を持ち歩くだけでなく、執筆中に参照するメモや資料も同じ USB メモリへまとめておくことができます。

大切なのは、単にファイルを保存することではありません。「何を知りたいときに、どこを開けばよいか」がすぐにわかるよう、自分の思考の流れに合わせてフォルダやファイルを設計しておくことです。

名詞や単語をすぐ取り出せるファイルを作る

小説を書いていると、登場人物名、地名、年齢、設定、作品独自の用語など、何度も確認したくなる情報が増えていきます。

こうした情報は本文の中だけに置かず、作品ごとに専用のテキストファイルへまとめておくとう便利です。一例ですが、次のようなファイルを用意することが考えられます。

- characters.txt 登場人物名、年齢、関係
- places.txt 地名、施設名、位置関係
- words.txt 作品独自の用語、表記
- memo.txt 思いついたことや修正事項

ファイル名は、自分が見ただけで内容を判断できるものにしておきます。細かく分類しすぎるよりも、「人物を確認したい」「言葉を確認したい」と思ったときに、迷わず開けることのほうが重要です。

頻繁に入力する人物名や固有名詞については、「1-5 日本語入力 IME 環境を整える」で紹介したスマート入力も併用できます。

資料ファイルは「確認するための記憶」、スマート入力は「入力を助けるための機能」と使い分けるとよいでしょう。

作家の「第二の脳」をつくる

WZW3 Portable には、現在書いている作品だけでなく、執筆に役立つ情報を少しずつ蓄積していくこともできます。

たとえば、次のようなファイルです。

・過去作品ファイル

以前書いた作品を保存しておけば、過去に使用した人物名や表現、設定などを確認できます。

・メモファイル

思いついた場面、会話、タイトル候補、調べたいことなどをまとめます。作品ごとのメモだけでなく、作品未定のアイデアを保存するファイルを作ってもよいでしょう。

・語彙ストックファイル

こうしたファイルが増えてきたら、WZ Filer を使ってフォルダやファイルを整理できます。また、「あの表現をどこかで使ったはずだ」という場合は、WZ Grep を利用して複数のファイルをまとめて検索できます。すべてを頭の中で覚えておく必要はありません。

必要な情報を USB メモリ内へ保存し、必要になったら検索して取り出す。

この仕組みを整えておけば、WZW3 Portable そのものを、執筆を支える「第二の脳」として育てていくことができます。

複数ファイルを同時に開く

小説を書くとき、本文だけを見て作業するとは限りません。

本文を書きながら人物設定を確認する。プロットを見ながら次の場面を書く。過去の章から人物の口調

を確認する。このように、複数のファイルを行き来しながら書く場面は多くあります。

WZW3 では、複数の文書をタブで開くことができます。本文、人物設定、プロット、メモなどを同時に開いておけば、別のアプリケーションへ切り替えることなく、必要な資料を確認しながら執筆できます。参照したいファイルをあらかじめ開いておけば、WZW3 の画面全体を、ひとまとまりの「執筆机」のように使うことができます。

WZW3 Portable では、この「執筆机」を USB メモリごと持ち運びます。使用する PC が変わっても、同じ原稿、同じ資料、同じフォルダ構成から作業を始められることが、WZW3 Portable の大きな利点です。

「復元」で前回の執筆環境を呼び戻す

本文、プロット、人物設定、メモなどを複数のタブで開いて作業している場合は、WZW3 の「前回終了時の復元」を利用すると便利です。

[表示] — [設定] を開き、[インターフェース] タブの [前回終了時の復元] を設定しておく、WZW3 を終了したときに開いていたファイルを、次の起動時に再び開くことができます。

WZW3 Portable では、USB メモリを別の PC へ接続して WZW3 を起動したときにも、前回使っていた原稿や資料をまとめて開き直せるため、作業環境を一から作り直す手間を減らせます。さらに、過去に開いた文書では、カーソル位置や表示設定、アウトラインの状態なども記憶されるため、長い原稿や資料を開き直した場合でも、前回作業していた状態へ戻りやすくなります。

WZW3 Portable に原稿や資料をまとめ、「前回終了時の復元」を組み合わせれば、USB メモリを接続して WZW3 を起動するだけで、前回まで使っていた「執筆机」に近い状態から、すぐに作業を再開できます。

1-8. [WZW3 Portable の設定 6] 公共・職場 PC での運用

WZW3 Portable の利点が最もわかりやすく表れるのは、いつもとは異なる PC で文章を書く場面です。

USB メモリに WZW3 本体と設定、原稿、資料をまとめておけば、利用可能な PC へ接続して WZW3 を起動し、いつも通りの環境から作業を始めることができます。

ただし、前述したように、WZW3 Portable は PC の利用制限を回避するためのものではありません。職場や公共施設などで使用する場合は、その PC や組織の利用規則を必ず優先してください。

WZW3 Portable の真価が出る場面

WZW3 Portable は、同じ PC を使えない場面で役立ちます。

- 出張先で別の PC を利用するとき
- 研究室や会議室の PC で原稿を確認するとき
- 移動中にノート PC で続きを書くとき
- Wi-Fi を利用できない場所で執筆するとき

WZW3 Portable は、通常のテキスト編集そのものにインターネット接続を必要としません。WZW3 本体と原稿、必要な資料を USB メモリ内に用意しておけば、通信環境のない場所でも執筆が続けられます。

たとえば、出張や旅行、電車・飛行機での移動中、Wi-Fi 環境のない場所などで文章を書きたい場合にも、必要なデータをあらかじめ WZW3 Portable へ入れておけば作業できます。

クラウドへ接続できない時間は USB メモリ上で執筆し、通信できる環境へ戻ってからバックアップや同期をおこなう、という使い方もできます。

インストールできない環境での注意点

職場や学校、研究機関などでは、利用者が自由にアプリケーションをインストールできない場合があります。

WZW3 Portable は、USB メモリに作成した環境から起動して利用しますが、だからといって、どの PC でも自由に使用できるわけではありません。

組織によっては、USB メモリなど外部記憶媒体の接続を禁止していたり、USB メモリ上の実行ファイルを起動できないようにしていたりする場合があります。また、許可されていないアプリケーションの起動そのものを禁止していることもあります。

このような環境では、無理に WZW3 Portable を使用せず、管理者や組織の規則に従ってください。ネットカフェなど、不特定多数が利用する PC についても注意が必要です。USB メモリの利用が許可されている場合でも、マルウェアへの感染や、原稿・個人情報の漏えいなどのリスクを考慮する必要があります。

WZW3 Portable は、利用制限を回避するための仕組みではありません。利用を許可された PC の間で、自分の執筆環境をできるだけ再現するための仕組みと考えてください。

起動して、即いつもの画面

WZW3 Portable 環境を十分に整えておけば、作業を始めるまでの手順はシンプルになります。

USB メモリを接続して WZW3 を起動すれば、設定しておいた表示、キーバインド、スタイルなどを利用して、いつも通りの状態から文章へ向かうことができます。

さらに、「前回終了時の復元」を設定していれば、前回開いていた本文、プロット、人物設定、メモなどをまとめて呼び戻すこともできます。

もちろん、フォントや IME など、PC 側の環境に依存する部分は、使用する PC によって異なる場合があります。それでも、WZW3 本体とその設定、原稿や資料をひとまとまりにしておけば、新しい PC を使うたびに執筆環境を一から作り直す必要はありません。

USB メモリを接続する → WZW3 を起動する → 原稿を書く

この流れをできるだけ短くし、使用する PC が変わっても、すぐに「書く」ことへ戻れる環境を作る。それが、WZW3 Portable の運用で目指すところです。

1-9. [WZW3 Portable の設定 7] USB メモリの破損・紛失・マルウェア対策

WZW3 Portable では、WZW3 本体と原稿、資料、設定を USB メモリにまとめて持ち運びます。

便利な一方で、USB メモリには破損、紛失、マルウェア感染といったリスクがあります。WZW3 Portable を安心して使うためには、「USB メモリを失っても作業を再開できる」「紛失しても内容を簡単に読めない」という状態を、あらかじめ作っておくことが重要です。

USB メモリは「作業媒体」。「唯一の保管庫」にしない

USB メモリは、小型で持ち運びやすい反面、紛失や物理的な破損が起こりやすい記録媒体です。また、前述したように、フラッシュメモリには書き換え回数などによる寿命もあります。

そのため、WZW3 Portable の USB メモリを、原稿の唯一の保存場所にはしないようにします。

USB メモリは、現在の原稿を執筆するための「作業媒体」と考え、別の PC や外部記憶媒体、クラウドなどをバックアップ先として役割を分けておくとういでしょう。

また、作業後に USB メモリを取り外すときは、WZW3 で編集集中のファイルを保存して終了したうえで、Windows の「ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す」を利用します。データの書き込み中に USB メモリを取り外すことによるデータの破損や損失を防ぐためにも、安全な取り外しを習慣にしておきましょう。

[column:5] WZW3 Portable を格納した USB メモリを紛失したら…

WZW3 Portable の大きな利点は、どの PC でも「自分の思考速度」で書けることにあります。設定、配色、キーバインドが毎回同じであること。

管理者権限が不要で、会社の PC や共用環境でも使えること。

インストールの痕跡を残さず、原稿やメモを、環境ごと持ち運べること。

つまり、「PC に合わせる」のではなく、「PC を道具化する」という発想です。

しかし、その利点がそのまま、不安にもつながります。

もし、この USB メモリを破損したら

もし、どこかで紛失してしまったら

そこに保存されている創作テキストを、すべて失ってしまうのではないか

このような不安は、決して大袈裟なものではありません。

だからこそ、USB メモリは「作業媒体」であって、「唯一の保管庫」にしてはいけません。

WZW3 Portable 環境とは、持ち運べることが価値なのではなく、「失っても書き続けられること」に価値があります。

そのために必要なのは、「壊れたら仕方ない。でも、大丈夫」「無くしたら仕方ない。でも、大丈夫」と、静かに言える状況を用意しておくことです。

物理的に USB メモリが消えても、データは生きている。この状態を、あらかじめ作っておく必要があります。

別媒体への定期的なコピー保存、あるいは、OneDrive や Dropbox といったクラウドサービスとの連携が現実的な解決策です（※詳細は第 2 章 WZW3 と OneDrive/Dropbox の連携を参照してください）。

安心して書くために、失っても大丈夫な環境を先に整えておきましょう。

別媒体への定期的なコピー保存

WZW3 Portable そのものを定期的に別の場所へコピーしておけば、USB メモリが破損したり紛失したりした場合でも、環境を復旧しやすくなります。

たとえば、自宅 PC のバックアップ用フォルダ、別の USB メモリや外付けドライブ、OneDrive や Dropbox などのクラウドストレージへ定期的にコピーします。

原稿だけでなく、WZW3 本体や設定、資料などを含む WZW3 Portable 全体を複製しておけば、USB メモリを交換した場合にも、いつも通りの環境へ戻しやすくなります。

大切なのは、バックアップを WZW3 Portable 用 USB メモリと同じ場所だけに置かないことです。USB メモリそのものを紛失した場合にも復旧できるよう、別の媒体やクラウドにもコピーを残しておきましょう。

クラウドストレージを利用したバックアップについては、第 2 章で詳しく解説します。

USB メモリの暗号化を検討する

USB メモリを紛失した場合に問題になるのは、原稿を失うことだけではありません。保存されていた未発表原稿、メモ、取材資料などを第三者に読まれる可能性もあります。

持ち歩く USB メモリには、必要に応じて暗号化を施すとよいでしょう。

・ Windows 11 の BitLocker を利用する

Windows 11 Pro、Enterprise、Education では、BitLocker を利用して USB メモリなどのリムーバブルドライブを暗号化できます。USB メモリなどのリムーバブルドライブには「BitLocker To Go」が利用されます。

Windows 11 Home では、Pro など提供される BitLocker ドライブ暗号化は利用できません。ただし、対応する PC では「デバイスの暗号化」が利用できる場合があります。

BitLocker を設定する場合は、Windows で「BitLocker の管理」を開き、USB メモリに対して「BitLocker を有効にする」を選択します。その後、ロック解除方法を指定し、回復キーを保存して暗号化を実行します。

特に重要なのが、回復キーの保管です。

回復キーを失うと、必要になったときに Microsoft でも再作成することはできません。WZW3 Portable 用 USB メモリとは別の安全な場所へ必ず保存してください。

・ BitLocker を利用できない場合

BitLocker を利用できない環境では、暗号化機能を備えた USB メモリを利用する方法や、信頼できる暗号化ソフトウェアを使用する方法もあります。

ただし、WZW3 Portable では複数の PC で USB メモリを利用するため、暗号化方式によっては、使用する PC に解除用ソフトウェアや管理者権限が必要になる場合があります。

暗号化を選ぶときは、「強度」だけでなく、実際に使用する PC で問題なくロックを解除できるかも確認しておきましょう。

マルウェアへの備え

複数の PC へ USB メモリを接続する WZW3 Portable の運用では、マルウェアへの対策も必要です。

特に、不特定多数が利用する PC や、管理状態のわからない PC へ接続する場合は注意してください。使用する PC のセキュリティ対策を確認し、不安のある PC では USB メモリを使用しないことも重要です。

Microsoft Defender Antivirus では、リアルタイム保護が有効な場合、USB メモリなどのリムーバブルメディア上のファイルも、アクセスや実行時の保護対象になります。

外部の PC で WZW3 Portable を使用したあとは、自分の管理する PC へ戻した際に、USB メモリをセキュリティソフトで確認しておく、より安心です。

WZW3 Portable では、「失わない」「読めない」「感染させない」という 3 つの視点で USB メモリを守ることが、安心して書き続けるための基本になります。

[column:6] WZW3 Portable を格納した USB メモリが感染したら？

外部の PC に USB メモリを装着する以上、データを盗み取られたり、マルウェアに感染したりする可能性はゼロではありません。

特に、出張先の PC や、研究室・会議室の共用 PC、管理外の環境で USB メモリを使う場合、この不安は現実的なものになります。

だからこそ、WZW3 Portable 環境には「便利さ」だけでなく、「守りの設計」が必要です。

WZW3 Portable で作成したテキストは、常に USB メモリ側に保存される設定にしておくことを勧めます。

PC 側にデータを残さない。これは、最初に取り組むべき基本的な対策です。

加えて、USB メモリそのものを暗号化しておくことで、万が一のリスクを大きく下げることができます。

暗号化は、特別な知識がなければ扱えない技術ではありません。Windows10/11 では、標準機能である「BitLocker」を利用することで、比較的簡単に USB メモリを暗号化できます。

(※具体的な手順については、該当リンクを参照してください)。

暗号化とは、何かを疑うための仕組みではありません。

安心して書くための、ごく現実的な準備です。

創作において、最も避けたいのは、不安が先に立ち、書くことそのものを躊躇してしまう状態です。

WZW3 Portable は、どこでも書ける自由を与えてくれます。

そして、その自由を守るのは、仕組みです。

安全を確保した環境であれば、書き手は余計なことを考えず、ただ文章に向かうことができます。

安心して書くために、守りを整える。これもまた、書き続けるための大切な技術です。

BitLocker の概要 (Microsoft Support)

<https://support.microsoft.com/ja-jp/windows/security/encryption/bitlocker-overview>

第2章 WZW3 と OneDrive／Dropbox の連携

USB メモリに WZW3 Portable を作成しても、その USB メモリだけに原稿を保存しては、破損や紛失に十分備えることができません。

そこで本章では、OneDrive や Dropbox などのクラウドストレージを組み合わせ、WZW3 Portable の環境とは別の場所にも原稿や設定を残し、「失っても書き続けられる」状況をつくる方法を解説します。

USB メモリを「書くための場所」、クラウドを「失ったときに戻るための場所」として使い分けることで、使用する PC が変わっても、安心して執筆が続けられる環境を整えていきます。

2-1. クラウド連携の基本的な考え方

WZW3 Portable では、USB メモリを持ち運ぶことで、原稿と執筆環境を一緒に利用できます。しかし、USB メモリだけにすべてを保存していると、その USB メモリが破損・紛失したときに、原稿と環境を同時に失う可能性があります。

そこで利用したいのが、OneDrive や Dropbox などのクラウドストレージです。

ここでは、OneDrive または Dropbox がすでに Windows 上で利用でき、ファイルを同期できる状態になっていることを前提に説明します。

バックアップと同期の違いを理解する

クラウドストレージを利用するときに、最初に理解しておきたいのが「バックアップ」と「同期」の違いです。

同期は、ある場所を変更したファイルを、クラウドを介してほかの PC にも反映する仕組みです。OneDrive や Dropbox では、同期フォルダ内のファイルをクラウドと同期し、複数のデバイスから利用できます。

一方、バックアップの目的は、現在のファイルとは別に「戻れるコピー」を残しておくことです。

Portable 運用では、この違いを意識することが重要です。たとえば、原稿を誤って削除し、その削除がクラウドにも同期されてしまうと、「同期していたから安全」とはなりません。

そこで、USB メモリを現在の執筆環境とし、クラウドを USB メモリを失ったときに戻るための複製先として使い分けると安全です。さらに、OneDrive や Dropbox が備えているバージョン履歴を組み合わせれば、誤って上書きした場合に以前の状態へ戻せる可能性が高まります。

バックアップと同期の違い

どちらも大切ですが、目的と性質がまったく異なります。
違いを理解して使い分けることで、大切な原稿をしっかりと守れます。

同期 (Sync)

変更をほかの場所にも反映するしくみ



PC Aで編集・保存した内容がクラウドを通じて、PC Bにも反映され、常に最新の状態を共有します。

特徴

- ・常に最新の状態が他のデバイスにも反映される
- ・複数のデバイスで同じ原稿を扱える
- ・削除や上書きも同期されることがある
- ・過去の状態には戻れない（履歴保存は別機能）

主な用途



複数PCでの
同時作業



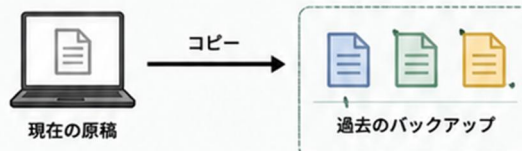
外出先での
続き作業



スマホやタブレット
との共有

バックアップ (Backup)

過去の状態に戻れるコピーを残すしくみ



現在の原稿を、別の場所や別の媒体にコピーして保存します。
誤って削除・上書きした場合でも、過去の状態に戻れます。

特徴

- ・保存するたびに「過去の状態」を残せる
- ・削除や上書きがあっても、戻ることができる
- ・自動・手動で定期的にコピーする
- ・同期とは違い、他のデバイスには反映しない

主な用途



世代履歴の保存



外付けHDD・
USBへの保存



クラウドへの
バックアップ保存

具体的な違いのまとめ

項目	同期 (Sync)	バックアップ (Backup)
目的	最新の状態を共有・反映する	過去の状態に戻れるコピーを残す
保存場所	クラウド上の1か所（同じ場所）	別の場所・別の媒体（もう1つの場所）
反映のしかた	変更・削除・上書きも反映される	コピーを残すだけで、元には影響しない
過去の状態に戻る	基本的にできない（履歴機能が必要）	できる（バックアップから復元）
主なサービス	OneDrive、Dropbox、Google Drive など	WZ 世代履歴、外付けHDD、USB、クラウドへのバックアップ保存など

！ ここに注意！

- ・同期は、削除や誤った上書きも反映されてしまいます。
- ・クラウドの同期だけでは、過去の原稿を取り戻すことはできません。
- ・「同期で作業を効率化」＋「バックアップで過去を守る」の組み合わせが、安全な執筆環境の基本です。

例：誤って原稿を削除した場合

同期だけの場合 → 他のPC・スマホからも削除される

バックアップがある場合 → 過去のコピーから復元できる

おすすめの使い分け例

日常の執筆・編集



クラウド同期で、いつでも
どこでも同じ環境で作業



定期的なバックアップ



世代履歴・USB・
クラウドにコピー保存



万が一のとき



過去の状態から復元して、
執筆を再開できる



ポイント

同期とバックアップ、
どちらか一方ではなく、
両方をうまく活用することが、
大切な原稿を守る最善の方法です。

クラウドに WZW3 Portable 環境のコピーを残す

もっとも簡単な方法は、USB メモリ内の WZW3 Portable の環境を、定期的にクラウドの同期フォルダへコピーすることです。たとえば、OneDrive や Dropbox 内に、

WZW3_Portable_Backup

というフォルダを作成し、USB メモリ内の WZW3 Portable の環境を丸ごとそこにコピーします。

原稿だけをバックアップしてもかまいませんが、WZW3 本体、設定、原稿、資料などをまとめてコピーしておけば、USB メモリを失った場合にも、WZW3 Portable 環境そのものを復旧しやすくなります。

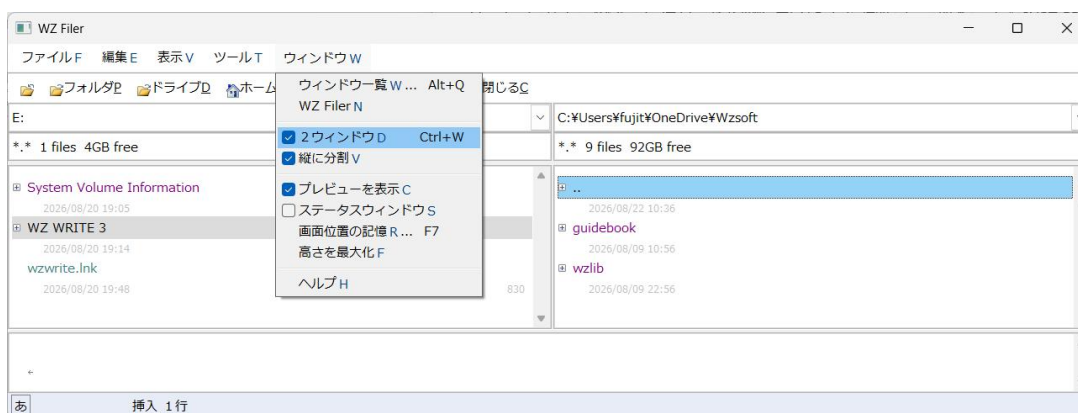
ここで大切なのは、クラウド側のファイルを日常的に直接編集するのではなく、基本的には「戻るためのコピー」として扱うことです。

USB メモリを破損・紛失した場合は、クラウドに保存してあるコピーを新しい USB メモリへ戻すことで、WZW3 Portable 環境を復元できます。

WZ Filer を使ってクラウドへコピーする

バックアップ先へのコピーには、Windows のエクスプローラーだけでなく、「WZ Filer」を利用することもできます。

WZ Filer で [ウィンドウ] - [2 ウィンドウ] を ON にすると、左右に異なるフォルダを表示できます。たとえば、一方に WZW3 Portable 用 USB メモリ内のフォルダ、もう一方に OneDrive や Dropbox 内のバックアップフォルダを表示して、必要なファイルをコピーします。



WZW3 で原稿を書き終えたあと、そのまま WZ Filer を使ってクラウド側へコピーする流れを決めておけば、バックアップ作業を日常の執筆手順に組み込みやすくなります。

書く → 保存する → クラウドへコピーする。

この流れを習慣にしておけば、USB メモリに何かあった場合でも、クラウド側に「戻るためのコピー」が残ります。

別の PC で復旧する場合は、同じ OneDrive または Dropbox へアクセスし、クラウド側のコピーから新しい USB メモリへ WZW3 Portable の環境を戻します。

USB メモリ → クラウド → 新しい USB メモリ

この復旧経路をあらかじめ作っておくことが、WZW3 Portable とクラウドを組み合わせる基本的な考え方です。

2-2. OneDrive との連携

Windows で OneDrive を利用している場合は、エクスプローラーに表示される OneDrive フォルダを、WZW3 Portable のバックアップ先として利用できます。

バックアップフォルダをクラウドに置く

OneDrive フォルダ内に、WZW3 Portable 専用のバックアップフォルダを作成します。たとえば、

OneDrive¥WZW3_Portable_Backup

など、用途がわかる名前にしておくとい良いでしょう。

作業を終えたら、USB メモリ内の WZW3 Portable と重要な原稿フォルダをここへコピーします。コピーしたあとは、OneDrive の同期が完了していることを確認します。

OneDrive では、クラウド上だけに置くファイルと、PC にも保持するファイルを使い分けることができます。オフラインでも確実に利用したいバックアップについては、必要に応じて [このデバイス上で常に保持する] を設定しておくとい良いでしょう。

なお、いつも同じ自分の PC だけで使用する場合は、WZW3 の [バックアップフォルダ] に OneDrive 内のフォルダを直接指定する方法もあります。

ただし、WZW3 Portable を複数の PC で使用する場合は、OneDrive フォルダの場所や Windows のユーザー名などが PC ごとに異なることがあります。

この場合は、特定の PC のパスを WZW3 Portable へ固定するよりも、USB メモリで作業し、作業後に OneDrive へコピーする方式のほうが扱いやすいでしょう。

バージョン履歴を活用する

OneDrive には、保存されているファイルの過去の版を確認・復元する「バージョン履歴」があります。原稿を誤って書き換えた場合などは、OneDrive 上で対象ファイルの「バージョン履歴」を開き、以前の版を確認して復元できます。

エクスプローラーから OneDrive のバージョン履歴を確認する場合は、次の手順で操作します。

1. エクスプローラーで OneDrive フォルダを開く
2. 履歴を確認したい.txt ファイルを右クリックする
3. 必要に応じて「その他のオプションを確認」を選択する
4. 「バージョン履歴」を選択する
5. 過去のバージョン一覧を確認する
6. 戻したい版を選び、「復元」を実行する

WZW3 にも「世代履歴」がありますが、両者は保存される場所と役割が異なります。

WZW3 の世代履歴は、日常的な書き直しから過去の文章へ戻るために利用します。一方、OneDrive のバージョン履歴は、クラウド側に保存されたファイルを過去の状態へ戻すために利用します。

このように複数の仕組みを重ねることで、一つの保存方法だけに依存しない環境を作ることができます。

2-3. Dropbox との連携

Dropbox を利用している場合も、基本的な考え方は OneDrive と同じです。

Dropbox の同期フォルダ内に保存したファイルはクラウドへ同期され、同じアカウントを利用するほかのデバイスからもアクセスできます。

WZW3 Portable のバックアップ先として、

Dropbox¥WZW3_Portable_Backup

といったフォルダを作り、USB メモリ内の原稿や WZW3 Portable 環境を定期的にコピーしておきます。

クラウド側のコピーは、日常的に直接編集する原稿ではなく、USB メモリに何かあったときに「戻るためのコピー」として扱うと管理しやすくなります。

バージョン履歴を活用する

Dropbox にも、以前のファイルへ戻すためのバージョン履歴があります。

Dropbox 上で対象ファイルの「バージョン履歴」を開くと、以前の版を確認し、必要な状態へ戻すことができます。過去のファイルを復元できる期間は、利用している Dropbox のプランなどによって異なります。

誤って文章を削除したり、古い内容で上書きしたりした場合には、まずバージョン履歴を確認してみましょう。

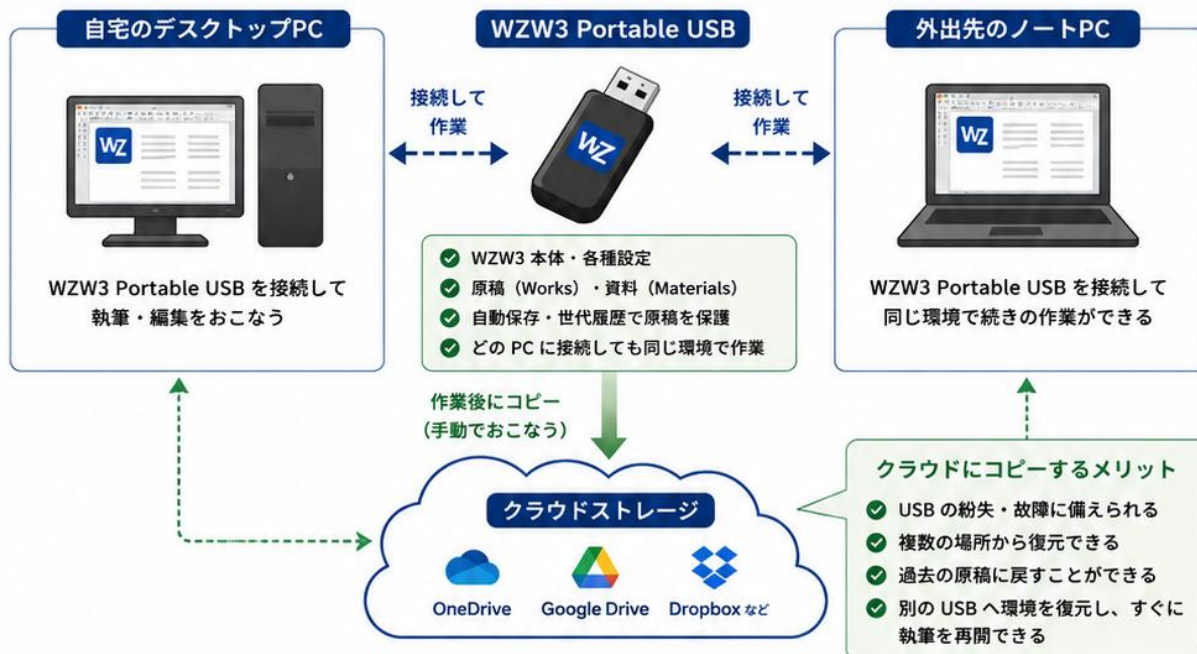
OneDrive と同じように、WZW3 の世代履歴、USB メモリ内のバックアップ、Dropbox のバージョン履歴を組み合わせておけば、異なる段階から過去の原稿へ戻る方法を確保できます。

2-4.WZW3 Portable USB＋クラウドの二重構成

WZW3 Portable の運用で目指したいのは、「USB メモリがあるから大丈夫」という状態ではありません。USB メモリを紛失しても、破損しても、別の場所に原稿と環境が残っていて、再び書き始められる状態を作ることです。

WZW3 Portable USB + クラウドの基本構成

WZW3 Portable USB を作業の中心に置き、原稿をUSB内で管理します。
作業後はクラウドにコピーして、万一に備えます。



基本的な運用の流れ



WZW3 Portable USB の中身 (フォルダ構成の例)



ポイント

- すべてのファイルを USB 内で完結させることで、どの PC に接続しても同じ環境で作業できます。
- ドライブ名 (E:/F:/G:/...) が変わっても、USB 内の構成が同じなら問題ありません。
- 原稿は「単なるアプリの入れ物」ではなく、あなたの執筆環境そのものです。

大切なこと

- USB はあくまで「作業の中心」です。万一のときに備え、必ずクラウドへコピーしましょう。
- クラウドへのコピーは自動ではありません。作業後に、自分のタイミングでおこないます。
- クラウドは「戻すための保険」です。定期的にコピーすることが安心につながります。

まとめ

WZW3 Portable USB を中心にした運用に、クラウドを組み合わせることで、「どこでも同じ環境で執筆でき、万一のときにも原稿を失わない」安心の執筆環境が実現します。

「どこでも大丈夫」と言える環境をつくる

たとえば、日常の執筆を次のような流れにします。

1. USB メモリの WZW3 Portable で執筆する
2. WZW3 の自動保存・バックアップ・世代履歴で編集中原稿を守る
3. WZ Filer などを使い、作業後に WZW3 Portable 環境または原稿を OneDrive／Dropbox へコピーする
4. クラウドへの同期が完了したことを確認する
5. USB メモリを安全に取り外す

この流れを習慣にしておけば、USB メモリを失っても、クラウド側のコピーから原稿や WZW3 Portable 環境を復旧できます。

オフラインでは USB メモリで書き、オンラインへ戻ったらクラウドへコピーする。

この役割分担が、WZW3 Portable ではシンプルで扱いやすいでしょう。

クラウドと WZW3 Portable USB の使い分け

USB メモリとクラウドは、どちらか一方を選ぶものではありません。

USB メモリは、WZW3 本体と設定、原稿、資料をまとめ、自分の執筆環境を持ち運ぶことに向いています。

クラウドは、USB メモリを失ったときの復旧、別のデバイスからのアクセス、過去のファイルへの復元などに役立ちます。

WZW3 の世代履歴、WZW3 Portable USB、OneDrive や Dropbox をそれぞれ異なる役割で組み合わせることで、一つの機器や一つの保存方法に依存しない執筆環境を作ることができます。

「USB メモリを失っても、今日の続きを書ける」。

そうした状態を準備しておくことが、WZW3 Portable を安心して使い続けるための完成形といえるでしょう。

第 3 章 WZW3 Portable 運用のケーススタディ

ここまで、WZW3 Portable の作成方法や各種設定、クラウドを組み合わせたバックアップについて解説してきました。

本章では、それらを実際の利用場面に当てはめ、自宅と外出先で同じ執筆環境を使う場合、出張先で執筆する場合、USB メモリを紛失した場合、職場や共用 PC で利用する場合などを、ケーススタディとして紹介します。

WZW3 Portable をどのように活用すれば、場所や使用する PC が変わっても、いつも通りの感覚で安心して書き続けられるのか。具体的な運用例を通して整理していきます。

3-1. ケース 1：自宅 PC とノート PC で同じ執筆環境を使う

自宅ではデスクトップ PC、外出時にはノート PC というように、複数の PC を使い分けている場合があります。

この場合、PC ごとに WZW3 の環境を構築するのではなく、USB メモリに作成した WZW3 Portable を「共通の執筆環境」として使うと管理しやすくなります。

WZW3 Portable を USB メモリにまとめる

WZW3 本体、設定、執筆中の原稿、人物設定やプロットなどの資料を WZW3 Portable USB へまとめます。自宅 PC でもノート PC でも、基本的にはこの USB メモリから WZW3 を起動します。

「自宅 PC にある原稿」と「ノート PC にある原稿」を別々に管理するのではなく、WZW3 Portable 環境にある原稿を共通の作業用データとして扱うことがポイントです。

フォント・行間・キーバインドを揃える

WZW3 側の表示設定やキーバインドは、WZW3 Portable で共通化できます。

一方、フォントなど Windows 側に依存するものは、自宅 PC とノート PC のそれぞれで利用できるように設定しておきます。

完全に同じ環境にできない場合でも、WZW3 の表示や操作をできるだけ揃えておけば、使用する PC を変更したときの違和感を小さくできます。

IME 環境を揃え、スマート入力を活用する

可能であれば、自宅 PC とノート PC で同じ IME を使用し、ユーザ辞書なども揃えておきます。ユーザ辞書を定期的にエクスポート／インポートして、両方の PC で同じ辞書を利用できるようにしておくといでしょう。

同じ辞書を利用できない場合でも、WZW3 のスマート入力を利用すれば、原稿内ですでに使用されている人物名や地名、固有名詞などを補完候補として利用できます。

IME だけに頼らず、WZW3 側の入力支援も組み合わせることで、PC が変わったときの入力環境の差を小さくできます。

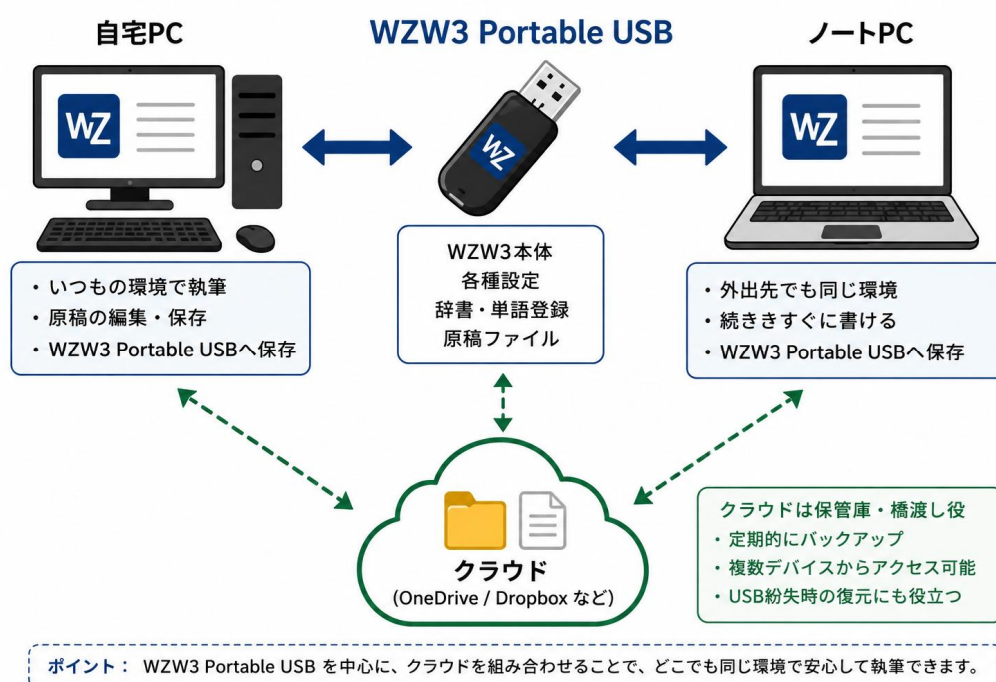
クラウドにバックアップを置く

作業終了後には、WZ Filer などを使って原稿や WZW3 Portable を OneDrive／Dropbox へコピーし、バックアップを残します。

USB メモリを「作業用」、クラウドを「復旧用」と役割分担しておけば、USB メモリにトラブルが起きても、クラウド側のコピーから作業を再開できます。

運用の流れ

1. 自宅 PC では、USB メモリの WZW3 Portable で執筆する
2. 外出時は、ノート PC に同じ USB メモリを接続して続きを書く
3. 作業終了後、OneDrive／Dropbox へバックアップする



このように、WZW3 Portable 用 USB メモリを執筆環境の中心に置けば、自宅 PC とノート PC のどちらを使う場合でも、同じ原稿と設定から作業を始めることができます。

PC ごとに執筆環境を持つのではなく、ひとつの執筆環境を PC から PC へ持ち運ぶ。
これが、自宅と外出先で WZW3 Portable を使い分ける基本的な考え方です。

【参照】

WZW3 Portable を USB メモリにまとめる	9p
フォント・行間・キーバインドを揃える	16p
IME 環境を揃え、スマート入力を活用する	19p
クラウドにバックアップを置く	33p

3-2. ケース 2：出張先・移動先で原稿を書く

出張先や移動中など、普段とは異なる場所で文章を書きたい場合にも、WZW3 Portable を活用できます。
ここで大切なのは、「いつでもインターネットへ接続できる」ことを前提にしないことです。通信環境がなくても必要な原稿や資料を利用できるよう、あらかじめ USB メモリ内の環境を整えておきましょう。

USB メモリから WZW3 を起動する

利用可能な PC へ WZW3 Portable を格納した専用 USB メモリを接続し、USB メモリ内の WZW3 を起動します。

WZW3 本体だけでなく、原稿や必要な資料も USB メモリ内に用意しておけば、普段使用している PC が手元にない状況でも、すぐに作業を始められます。

「前回終了時の復元」を利用している場合は、前回開いていた本文やプロット、メモなどをまとめて呼び戻すこともできます。

通信できない場所でも書けるようにする

WZW3 Portable では、通常のテキスト編集そのものにインターネット接続を必要としません。

移動前に、必要な原稿、人物設定、プロット、参考資料などを USB メモリへ入れておけば、Wi-Fi を利用できない場所でも執筆できます。

オンラインでしか閲覧できない資料が必要な場合は、出発前に確認し、必要な情報をオフラインでも参照できる形で用意しておくことで安心です。

通信できない場所では USB メモリで書き、オンライン環境へ戻ってからクラウドへバックアップする。
このように役割を分けておけば、通信環境に執筆を左右されにくくなります。

作業後に PC 側へ原稿を残さない

自分の管理下でない PC を使用する場合は、原稿を「デスクトップ」や「ドキュメント」など、PC 本体へ保存しないよう注意します。

作業のために原稿や資料のコピーを PC 側へ一時的に作成した場合は、作業終了後に不要なファイルが残っていないか確認し、必要に応じて削除してください。

原稿や資料は WZW3 Portable を格納した専用 USB メモリへ保存し、作業終了後は WZW3 を終了して、USB メモリを安全に取り外します。

【参照】

USB メモリから WZW3 を起動する	9p
通信できない場所でも書けるようにする	28p
作業後に PC 側へ原稿を残さない	29p

3-3. ケース 3：USB メモリを失っても原稿を失わない構成にする

WZW3 Portable を格納した専用 USB メモリには、WZW3 本体だけでなく、原稿や資料、各種設定も保存されています。

だからこそ、「USB メモリをなくしたら、すべてを失う」という構成にはしないことが重要です。

USB メモリは作業媒体、クラウドは保管庫と考える

USB メモリは、現在の原稿を書くための「作業媒体」として使用します。一方、USB メモリを失ったときに戻るためのコピーは、OneDrive や Dropbox、別の PC など、USB メモリとは異なる場所へ保存します。

OneDrive／Dropbox にバックアップを置く

作業が一区切りついたら、WZW3 Portable 環境または重要な原稿をクラウドへコピーします。

WZ Filer を使って、USB メモリ側とクラウド側のバックアップフォルダを並べて表示しておけば、日常的なコピー作業もおこないやすくなります。

「毎日の作業終了時」「大きな修正をしたとき」など、自分なりのバックアップのタイミングを決め、習慣にしておくといでしょう。

世代履歴とクラウドのバージョン履歴を併用する

WZW3 には、過去の原稿へ戻るための世代履歴があります。さらに、OneDrive や Dropbox 側でも、クラウドへ保存したファイルのバージョン履歴を利用できます。

WZW3 の世代履歴は、日常的な編集で過去の文章へ戻るための仕組みです。一方、クラウドのバージョン履歴は、クラウド側へ保存されたファイルを以前の状態へ戻すために利用します。

それぞれ保存される場所と役割が異なるため、複数の仕組みを組み合わせることで、一つの保存方法だけに依存しない環境を作ることができます。

復旧手順を決めておく

バックアップは、保存しておくだけでなく、「失ったら、どう戻すか」まで決めておくことが大切です。たとえば、次のような復旧手順を想定しておきます。

1. 新しい USB メモリを用意する
2. PC または OneDrive／Dropbox に保存したバックアップを確認する
3. WZW3 Portable 環境を新しい USB メモリへコピーする
4. USB メモリから WZW3 を起動する
5. 最新の原稿を確認し、執筆を再開する

実際に USB メモリを紛失してから復旧方法を考えるのではなく、あらかじめ「どこに最新のバックアップがあり、そこからどう戻すか」を明確にしておきましょう。

USB メモリを失っても、クラウドから WZW3 Portable 環境を復元できれば、再びいつもの環境で書き続けることができます。

USB メモリを失っても、原稿は失わない。そして、書く環境も失わない。
これが、WZW3 Portable とクラウドを組み合わせる大きな利点です。

【参照】

世代履歴を併用する	22p
OneDrive／Dropbox にバックアップを置く	33p
USB メモリは作業媒体、クラウドは保管庫と考える	39p
復旧手順を決めておく	40p

USBメモリを失っても、原稿は取り戻せます

クラウドにコピーしておけば、USBメモリを紛失・故障しても、新しいUSBメモリに環境を復元して、いつもの環境で執筆を再開できます。

1 USBメモリを紛失



USBメモリを落したり、置き忘れたりして手元にない状態です。

ポイント

- USBメモリそのものは再入手できないことがあります。
- しかし、クラウドにコピーしておけば、原稿や設定は必ず取り戻せます。
- あわてずに、次の手順で復旧しましょう。

2 クラウドから復旧



事前にコピーしておいたクラウド上のデータを、新しいUSBメモリへコピーします。

やること

- ✓ ログインして、最新のバックアップデータを確認（原稿・設定・資料など）
- ✓ 必要なファイル／フォルダをダウンロード
- ✓ 新しいUSBメモリの所定の場所にコピー

ポイント

できるだけ最新のバックアップを利用しましょう。

3 新しいUSBメモリへWZW3 Portable環境を復元



WZW3 本体や設定、原稿・資料などがそろった状態に新しいUSBメモリを整えます。

やること

- ✓ WZW3 本体や各種設定ファイルを正しい場所に配置
- ✓ Works や Materials などのフォルダ構成を確認
- ✓ 必要なツール（WZ Filer、WZ Grep など）も準備
- ✓ USBメモリ内で完結する環境を整える

ポイント

フォルダ構成や設定がそろっていれば、同じ環境がそのまま再現されます。

4 いつもの環境で執筆再開



WZW3 を起動すれば、いつもの環境ですぐに執筆を再開できます。

できること

- ✓ 原稿の編集・保存・自動保存・世代履歴もそのまま
- ✓ 見出し・スタイル・入力支援なども通常通り利用可能
- ✓ 必要に応じて、またクラウドへコピーして保護を継続

ポイント

復旧が完了したら、必ず新しいUSBメモリからクラウドへコピーして、再び二重の備えを整えましょう。



大切な備え

- USBメモリは「作業の中心」、クラウドは「戻すための保険」です。
- 定期的にクラウドへコピーする習慣をつけましょう。
- USBメモリを失っても、原稿と環境は必ず取り戻せます。

おすすめのバックアップ頻度

毎日または作業の区切りごとにクラウドへコピーするのが安心です。

3-4. ケース 4：職場・研究室の共用 PC で安全に使う

WZW3 Portable は、自分の PC 以外で WZW3 を使用するときにも役立ちます。

ただし、職場や研究室などの共用 PC には、それぞれ利用規則やセキュリティ上の制限があります。WZW3 Portable だからといって、自由に使用できるわけではありません。安全性と組織のルールを優先して利用してください。

WZW3 Portable 環境を活かす

USB メモリの使用や外部アプリケーションの実行が許可されている PC であれば、USB メモリから WZW3 を起動し、いつも通りの環境に近い状態で作業できます。

原稿や資料も WZW3 Portable を格納した専用 USB メモリへまとめておけば、PC 本体へ多数のファイルをコピーせずに作業できます。

フォントや IME など、PC 側に依存する部分は異なる場合がありますが、WZW3 本体や設定、キーバインドなどを共通化できるだけでも、使用する PC による環境の違いを小さくできます。

USB メモリ禁止の環境では無理に使わない

会社や学校、研究機関などでは、USB メモリの接続や外部アプリケーションの実行を禁止している場合があります。

このような場合は、WZW3 Portable を利用しないでください。

WZW3 Portable は、セキュリティ上の制限を回避するための仕組みではありません。利用を許可された環境の中で、自分の執筆環境をできるだけ再現するための仕組みです。

バックアップを組み合わせる

共用 PC で作業する場合も、原稿や資料は基本的に WZW3 Portable を格納した専用 USB メモリ側へ保存します。

クラウドストレージを利用できない環境では、作業終了後、自分の管理する PC へ戻ってから OneDrive / Dropbox などへバックアップします。

重要な作業をおこなったあとは、最新版の原稿を USB メモリだけに残したまま長期間持ち歩かないようにします。帰宅後や自分の PC へ戻った時点で、クラウドや別の記録媒体へコピーしておくで安心です。

ウイルス／ワーム／マルウェア対策を確認する

不特定多数が利用する PC や、管理状態のわからない PC へ USB メモリを接続すると、マルウェア感染などのリスクがあります。

利用前に、その PC が組織によって適切に管理されているかを確認しておきましょう。不安がある場合は、USB メモリを接続しないことも重要な判断です。

外部の PC で使用した USB メモリを自分の PC へ戻したときには、必要に応じてセキュリティソフトで確認しておくといよいでしょう。

また、未発表原稿や個人情報を含む資料を持ち歩く場合には、USB メモリの暗号化も検討してください。

WZW3 Portable を安全に使うためには、「使えるか」だけでなく、「使ってよいか」「安全に使えるか」まで確認することが大切です。

WZW3 Portable が目指すもの

WZW3 Portable の目的は、どこへ行っても完全に同じ PC を再現することではありません。

使用する PC が変わっても、WZW3 本体、設定、原稿、資料など、書くために必要な環境をできるだけ同じ状態に保ち、すぐに文章へ戻れるようにすることです。

自宅でも、移動先でも、別の PC でも、「ここから続きを書けばよい」と迷わず始められること。

PC に自分を合わせるのではなく、自分の使い慣れた執筆環境を持ち運ぶ。

そして、USB メモリを失っても、クラウドから環境を取り戻し、また続きを書く。

それが、WZW3 Portable を作家の道具として使う最大のメリットです。

【参照】

バックアップを組み合わせる	21p
USB メモリ禁止の環境での対応	28p
ウイルス／ワーム／マルウェア対策を確認する	29p

おわりに

本書では、WZW3 Portable の作成方法から、フォントやキー設定、IME、バックアップ、クラウドとの連携まで、場所や PC が変わっても書き続けるための環境づくりを紹介しました。

Portable 運用で大切なのは、USB メモリを持ち歩くこと自体ではありません。使い慣れた環境をできるだけ保ち、原稿を失う不安を減らし、どこでも文章へ戻れる状態を作ることです。

WZW3 Portable が、いつもの執筆環境を持ち歩き、どこでも安心して文章へ向かうための一つの方法となれば幸いです。

WZ Writing Editor ユーザーズグループ代表 藤田肇

〔略歴〕 立教大学文学部卒、神奈川県出身 46 歳

現在は千葉県浦安市在住のフリーランスジャーナリスト

MS-DOS 時代よりソフトウェアの評価や解説を手がけている

2026 年 8 月 16 日 [2026/07/31 公開 WZW 3.0.8 準拠]

発行：WZW ユーザーズグループ

本書に対するご意見、ご質問は以下の〔販売のお問い合わせ〕をお願いします。

<https://www.wzsoft.jp/wzw3/rqsell.php>

既刊「WZ Writing Editor 3 ガイドブックシリーズ全 5 冊



- 【1】 概要とインストール
- 【2】 原稿作成の基本
- 【3】 Word 時代の WZW3 活用法
- 【4】 作家のための道具化① 縦書き表示を活用した実践執筆術
- 【5】 作家のための道具化② WZW3 Portable の提案